



1873 (明治6) 年

房総最初の地方新聞「木更津新聞」発刊

千葉県誕生

千葉県初代県令に柴原和が就任

県庁舎開庁

地租改正条例の公布

千葉裁判所が創設

第1回千葉県議事会開催

「地租改正二付人民心得書」を各村に配布

ウィーン万国博覧会に流山の味淋出品

佐藤尚中(舜海)が東京で私立病院順天堂を開設

佐原小学校など公立学校が続々創立

1874 (明治7) 年

県庁舎が放火により焼失

千葉師範学校創立

千葉県警察誕生

銚子犬吠埼灯台完成

木更津県と印旛県が
立地と気候風土により、1873 (明治6) 年
廃藩置県を経て
千葉県が誕生

千葉県の成立 / 千葉県

江戸時代の終わり頃、房総には17藩があったが、さらに駿河や遠江(現静岡県)から入封した藩もあり、複雑な状況となっていた。1871(明治4)年に行われた廃藩置県により、房総に24の県が生まれ、統廃合が進められた結果、1873(明治6)年6月15日、木更津県と印旛県の合併により千葉県が誕生。当時の人口は約103万人、町村の数は2,785町村であった。

1873 (明治6) 年
千葉県初代県令に
柴原 和が就任

初代県令 柴原和 / 館山市立博物館

播磨国龍野藩(現兵庫県たつの市)出身の志士・柴原和(1832~1905年)は、宮谷県権知事や木更津県権令、印旛県権令(兼任)を歴任。千葉県が発足すると41歳で初代の県令になった。行政組織の整備や民会の設立のほか、育児事業、小学校を始めとした教育の普及、産業の振興などに尽力し、千葉県の礎を築いた。当時の兵庫県令や滋賀県令と並び「日本三県令」の一人と評された。

合併して千葉県が誕生!水系にめぐまれた
各地の地場産業も発展へ1873 (明治6) 年
千葉県の地租改正事業

地租改正二付人民心得書 / 「千葉県百年のあゆみ」より

1873(明治6)年7月28日、地租改正条例を公布し、税制の基本的な方針が示された。千葉県では10月にわかりやすく地租改正の実務を説明した「地租改正二付人民心得書」を作成し、各村に配布して事業の促進を図った。そして、県令柴原和は全国に先駆けて安房地方を選び、地租改正事業を推進したが、翌年2月の県庁焼失により事業は最終段階で中止となった。

1873 (明治6) 年
公立学校が続々と創立

佐原小学校 / 千葉県立房総のむら

1872(明治5)年8月、政府は欧米の教育制度を模範として、我が国初の近代的学校制度を定めた基本法令「学制令」を公布。これにより県内各地で小学校や中学校が次々と開校した。写真は、千葉県が誕生した年である1873(明治6)年の5月30日に開校した佐原小学校(現香取市立佐原小学校)である。

1874 (明治7) 年
いぬぼうさき
犬吠埼灯台が完成

犬吠埼灯台 / 千葉県立中央博物館

国内で24番目の西洋式灯台として、約2年の月日をかけて犬吠埼灯台が完成・点灯した。設計・施工監督は「日本の灯台の父」と讃えられたイギリス人技師のリチャード・ヘンリー・ブラントンであった。灯台には、国産煉瓦が約19万3,000枚使用され、二重壁構造や帯鉄を挿入するなど、当時の先進的な技術が取り入れられている。2020(令和2)年には、国の重要文化財に指定された。

1873 (明治6) 年
千葉県庁が本千葉町に開庁

明治中頃の千葉県庁(庁舎は右側) / 千葉県文書館所蔵 石井(千)家文書



明治時代に使用されていた公印(現在は廃止されている) / 千葉県文書館所蔵

1873(明治6)年、千葉県が誕生した際、県庁は千葉郡千葉町(現千葉市中央区本千葉町)に置かれた。場所は、印旛県庁が置かれた流山市と木更津県庁が置かれた木更津市の間を取って決められ、県庁舎は、旧菊間藩(現市原市菊間)の藩邸を移築し、手を加えて使用した。しかし、翌年2月に火災により焼失したことから、寒川一番地(現千葉市中央区市場町)に移転した。

1873 (明治6) 年
佐藤尚中(舜海)、順天堂
医院を開業

佐藤尚中 / 香取市教育委員会

江戸時代後期、佐倉藩主の堀田正睦が藩政改革の中で蘭学に力を入れていたこともあり、蘭方医である佐藤泰然は1843(天保14)年に佐倉に移住し、医学塾「順天堂」を開塾した。順天堂で先進医療を学び、泰然の弟子として家督を継いだのが佐藤尚中である。尚中は、1873(明治6)年に医院を開院し、1875(明治8)年に湯島本郷に移転して「順天堂医院」を設立し、日本の医学発展に寄与した。

1875 (明治8) 年

新治県廃止、香取、匝瑳、海上の3郡が千葉県に編入

下総牧羊場(宮内庁下総御料牧場)創設

1876 (明治9) 年

佐倉茶がニューヨークへ輸出される

千葉大学病院の前身、公立千葉病院開院

柴原県令が地租改正事務局総裁の大久保利通あてに地租軽減を上申

1877 (明治10) 年

佐倉大隊、西南戦争に出征

コレラが長崎・横浜で発生し全国に流行

「貧民子女資給与規則」を制定

第1回内国勸業博覧会で茂木佐平治家のキッコーマン印醤油が花紋賞牌を受賞

1878 (明治11) 年

千葉銀行の前身、第九十八国立銀行設立

千葉中学校(現県立千葉高校)創立

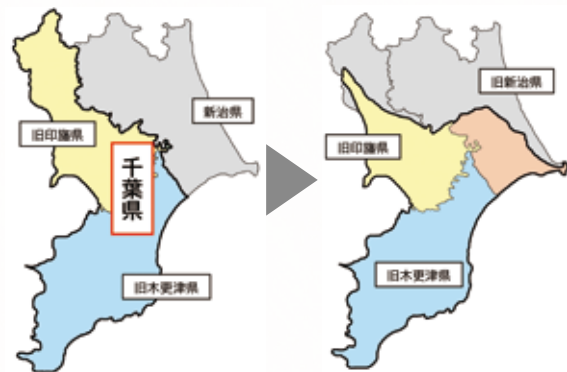
1879 (明治12) 年

第1回千葉県会(現千葉県議会)が開会

県教育会の創立総集会在開催

1875
(明治8) 年

千葉県が現在の かたちへ



いまの千葉県のかたちへ / 千葉県

千葉県の誕生から2年後の1875(明治8)年5月7日、新治県が廃止。これまで新治県に管轄されていた香取、匝瑳、海上の3郡が千葉県に編入されることとなった。同日、千葉県が管轄していた6郡(猿島、結城、岡田、豊田の4郡及び葛飾郡、相馬郡の一部)が茨城県へ、さらに葛飾郡の一部は同年8月30日に埼玉県に編入。これにより、千葉県は現在とほぼ同じかたちになった。

1875
(明治8) 年

日本初の牧羊場創設



下総御料牧場の光景(畜舎の内部) / 千葉県立房総のむら

明治政府は羊毛の国内自給を図り、日本初となる下総牧羊場(御料牧場)を旧富倉村十倉、七栄等に創設した。牧羊場には、アメリカ人牧羊家D.W.アッパ・ジョーンズが招かれ、羊の飼育が開始されたものの、1878(明治11)年にジョーンズが賊に襲われて重傷を負い、翌年に退職。指導者を失った下総牧羊場は、成果を上げることが困難となり、1880(明治13)年に取香種畜場と合併し、短い牧羊場経営の幕を閉じた。

明治初期

下総台地の開墾と農業



同協社改正規則草案 / 「千葉県百年のあゆみ」より



牧と開墾地 / 『図説 千葉県の歴史』217ページより引用

1877
(明治10) 年

学校教育の 定着に向けて



学用品供給部(安房郡富崎村) / 「千葉県百年のあゆみ」より

1872(明治5)年に公布された学制は、なかなか定着しなかった。そのため、1877(明治10)年に県は「貧民子女学資給与規則」を制定。就学が困難な貧民に学資を与え、学業の振興を図った。また、初等・中等学校教員の養成を目的とした師範学校が1874(明治7)年に設立され、1879(明治12)年8月には、全県的な教育関係者の集まりである「千葉県教育会」が発足する等、教員の養成も進められた。

千葉県の歴史コラム

千葉大学病院の変遷

千葉大学病院の創設は、1874(明治7)年にさかのぼる。当時、千葉町、寒川村、登戸村の有志がお金を出し合い、共立病院として千葉町に創設されたのである。当時の院長には佐倉順天堂の佐藤尚中門下である二階堂謙が迎えられ、1876(明治9)年には、公立千葉病院となり、同時に院内に医学教場が付設される等、医学教育の第一歩が踏み出された。その後の変遷を経て、1923(大正12)年には千葉医科大学に昇格



大正10年頃の県立千葉病院 / 千葉大学医学部附属病院

する。千葉医科大学は幾多の研究業績を挙げ、日本医学界の発展に貢献した。1949(昭和24)年、国立大学設置法に基づき、千葉医科大学を含む県内国立諸学校が統合され、国立千葉大学が誕生する。このことにより、千葉医科大学は千葉大学病院となり、附属病院が現在の千葉大学医学部附属病院となった。

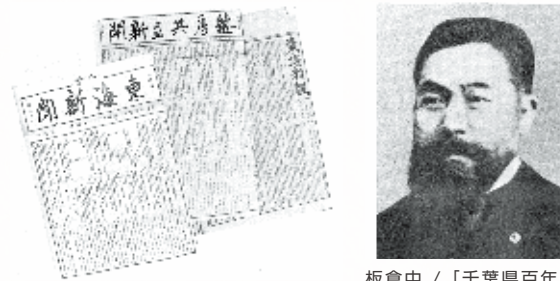
- 1880** (明治13)年
夷隅郡で民権派の政治結社「以文会」結成
- 桜井静が大日本国会法草案を発表
- 1881** (明治14)年
2代目千葉県会議事場完成
- 1882** (明治15)年
銚子汽船会社の銚子丸就航
- 県が群馬県・埼玉県に改良養蚕術の伝習生を県費で派遣
- 1883** (明治16)年
茂原村(現茂原市)の板倉胤臣が桑園を開き桑苗を配布
- 1884** (明治17)年
旧自由党員井上幹らが官吏侮辱罪相当として逮捕される(夷隅事件)
- 1885** (明治18)年
利根川大洪水、神崎町の堤防が決壊
- 1886** (明治19)年
オランダ人技師により利根川改修計画が策定
- 県内で空前のコレラ流行 患者数3,437人、死者2,334人
- 1887** (明治20)年
野田醤油醸造組合が創立
- 安井理民らが総州鉄道会社の創立願書を東京府へ提出(却下)
- 1888** (明治21)年
大橋村(現松戸市)で二十世紀梨発見

千葉県の 自由民権運動

明治初期
～中期



以文会の指導者 / 「千葉県百年のあゆみ」より



民権派の新聞 / 「千葉県百年のあゆみ」より
板倉中 / 「千葉県百年のあゆみ」より

初代県令の柴原和は、着任早々に地方民会を創設、第1回の県議事会を開催し、先駆的な範例を全国に示した。これをきっかけとして、政治的関心が高まった県会議員や地域の名望家達の中から、国会開設や憲法制定、国民の声が反映される仕組みを求める自由民権運動が始まっていった。

本県では、夷隅郡出身の井上幹による民権派の政治結社「以文会」が1880(明治13)年に誕生。この会は政治議論する同志の集まりで、メンバーは富裕農家によって構成され、のちに一般農民層にも広がっていく。そして、地租改正による税率の修正意見を提出するなど、活発な運動が展開された。本県出身の民権活動家は井上の他、桜井静、板倉中などがあげられる。

1881 (明治14)年 2代目千葉県会議事場 が完成



2代目千葉県会議事場の外観 / 千葉県文書館所蔵 石井(千)家文書

千葉市長洲に第2代目の千葉県会議事場が完成。屋根は平瓦と丸瓦を交互に置く本瓦葺きである一方、前面のベランダや窓は西洋風の擬洋風建築と呼ばれる和洋折衷の外観だった。敷地1,200坪のなかには、議事場のほか、湯飲所や雪隠(トイレ)、門番詰め所などが設けられ、井戸も掘られていた。この議事場は1881(明治14)年から1911(明治44)年まで使用された。

1882 (明治15)年 利根川の大量輸送時代



銚子利根川汽船場 / 年代不明 / 千葉県立中央博物館大利根分館

明治・大正時代の利根川水系は、蒸気船による大量輸送時代であった。明治10年代(1877～87)、利根川の船主たちは競って蒸気船を購入し、貨物や旅客の争奪戦を繰り広げていた。これらの争奪戦は船主の乱立による共倒れを招きかねない状態であったことから、1881(明治14)年12月に合同で「銚子汽船株式会社」を設立し、翌年1月に営業を開始した。蒸気船にとっての最大のライバル、鉄道が登場するまで同社は江戸川から利根川下流にかけての水運を内国通運会社とともに担うこととなる。

千葉県の歴史コラム

明治期、農家の牧野萬右衛門により落花生試作が開始

千葉県での落花生栽培は、1876(明治9)年、山武郡南郷村(現山武市)の農家・牧野萬右衛門が神奈川県から種子を買い入れて試作したことがきっかけとされている。その後、旭市から下総台地(現八街市、富里市等)へ広がっていく。



牧野萬右衛門 / 山武市歴史民俗資料館



ぼっち(落花生の野積み)の風景 / 八街市

1906(明治39)年には八街市で「千葉県落花生企業組合」が創立され、大正初期には一大産地となる。1949(昭和24)年になると、作付面積は八街地区全耕地の約80%を占めていた。昭和に入ると千葉県は落花生研究に着手し、優良品種の開発に成功し、全国へ普及していくこととなった。

1889 (明治22)年

額岡畜産会社創立

酒々井町誕生(日本で一番古い町)

第一高等中学校(現東京大学)在学中の夏目漱石が房総一周の旅をする

浜野昇が稲毛海気療養所を開設

牧野萬右衛門の提唱により落花生商業組合が結成

1890 (明治23)年

利根運河完成

第1回衆議院選 千葉県から9人が当選

鶴舞町(現市原市)出身の石川倉次が翻案した点字が日本点字として採用

一宮町(初代)誕生

富津第一海堡が完成

県下初の幼稚園(私立)佐原に創立

1891 (明治24)年

祇園大塚山古墳(現木更津市)発掘

千葉県漁業組合連合会が結成

夷隅郡大多喜町で天然ガスが発見される

1892 (明治25)年

県教育会が県内初の図書館・県教育会附属図書館を創設

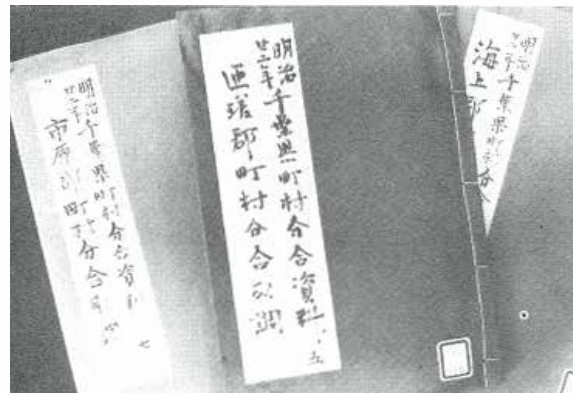
1893 (明治26)年

各警察署の位置を定め各警察署のもとに警察分署を創設

1889

(明治22)年

町村の大合併を実行



町村分合資料 / 「千葉県百年のあゆみ」より

1887(明治20)年、内閣雇ドイツ人アルベルト・モッセの起草した市町村制の草案は、地方制度編纂委員会で、市制と町村制に分けられ、議決を経て、内閣に提出された。翌年公布された町村制により、財政規模拡大のため大規模な町村合併を行う。本県では4月1日に施行。2,457の町村は358町村(42町316村)まで統合され、1町村あたりの平均戸数は合併以前1町村86戸に対し、590戸に増加した。

1890

(明治23)年

最初の国政選挙実施



第1回総選挙で当選した群馬県、千葉県各区の衆議院議員 / 朝日新聞社

1890(明治23)年7月1日に第一回衆議院選挙を実施。選挙権は直接国税を15円以上納める満25歳以上の男子のみで、人口の1%程度にとどまり、投票率は93.73%だった。本県では8つの選挙区に分けられ、豪農や地主を中心に9人が当選。そのうち、板垣退助率いる自由党からは4人、大隈重信率いる立憲改進黨は3人と、国粋主義を掲げる政党が多数議席を獲得した。

1890

(明治23)年

利根運河の完成



利根運河の江戸川側の入口の様子 / 千葉県立中央博物館



利根運河工事写真2 / 流山市立博物館所蔵



利根運河開削工事写真1 / 流山市立博物館所蔵



利根運河を航行する蒸気船 / 山中金三氏所蔵

1890

(明治23)年

富津岬の第一海堡が完成



終戦後に撮影された第一海堡 / 関東地方整備局東京湾口航路事務所



28センチ榴弾砲 / 関東地方整備局東京湾口航路事務所

利根運河は、柏市、流山市、野田市を流れる全長約8.5kmの人工運河であり、日本初の西洋式運河である。江戸時代、利根川は江戸と北関東、東北地方を結ぶ重要な水運路であったが、江戸後期頃には野田から関宿にかけての利根川が土砂堆積によって航行が困難になり、船の運航に支障をきたしていた。明治時代に入ると、貨物輸送量の増加に対応するため、利根川と江戸川を運河でつなぐ計画が持ち上がった。

1874(明治7)年には広瀬誠一郎が建設計画を提案し、1886(明治19)年には利根運河株式会社設立された。工事はオランダ人技師ムルデル指導のもと、1888(明治21)年に着工され、1890(明治23)年に通水が行われた。開通後は米や木材の輸送に活用され多くの船舶が行き交ったが、鉄道や道路網の発展で水運は衰退。1941(昭和16)年の大洪水で壊滅的な打撃を受け、その後国有化されるに至った。

日本では明治から大正にかけて首都東京を防衛するため、東京湾口部に海堡と呼ばれる海上要塞が建設された。海堡は、砲台を設置するために造られた人工島で、富津沖は東京湾の入口、半島先端地域に位置する地形特性を有していたことから建設地として指定された。

1881(明治14)年に第一海堡が着工となり、1890(明治23)年12月に竣工となった。工事には32万人の人夫が動員され、埋立造成費だけで38万円(現在価格で約35億円)がかけられている。対艦用の海岸砲として、国産の28センチ榴弾砲14門等が配備された。

さらに1889(明治22)年からは第二海堡の建設も開始(1914(大正3)年竣工)され、防衛線の強化が図られた。

また、1899(明治32)年公布の「要塞地帯法」では、富津岬周辺も国防に関わる指定区域として、立ち入りや撮影等、さまざまな活動が厳しく制限された。

1894 (明治27)年

総武鉄道が県内初の鉄道として市川一佐倉間を開通

日清戦争勃発(～1895年)

1897 (明治30)年

天然痘が流行

県内初の公立図書館創設

佐倉藩ゆかりの画家浅井忠「漁婦」発表

第2回水産博覧会で県のノリ移植法が紹介

1899 (明治32)年

富津海岸が東京湾要塞地帯に指定される

成田山で「米屋」創業

1900 (明治33)年

津田梅子 女子英学塾(現津田塾大学)創立

千葉県高等女学校(現県立千葉女子高校)創立

1901 (明治34)年

千葉県初の信用組が吉野村(現富津市)に誕生

第一高等学校医学部を千葉医学専門学校と改称

1902 (明治35)年

成田鉄道が上野―成田間に直通列車を開通し、喫茶室付き客車の営業開始

森為吉が勝浦町(現勝浦市)にヨード(ヨウ素)粗製工場を建設

1894
(明治27)年

鉄道開設ブームが到来



開業当時の佐倉機関車庫構内 / 「千葉県百年のあゆみ」より



安井理民の墓(山武市成東) / 「千葉県百年のあゆみ」より



人車鉄道 明治末期～大正初期 / 千葉県 / 「千葉県百年のあゆみ」より

1894(明治27)年7月、本県はじめての鉄道が市川一佐倉間に通し、千葉駅も開業した。12月には市川一本所間、さらに1897(明治30)年6月には佐倉―銚子間が開通。この実現には成東の安井理民が27歳の若さで150有余名の株主を募り、資金を集める等、多大な貢献をしたことが知られている。

1900
(明治33)年

女子高等教育の 先駆者・津田梅子



津田梅子 / 津田塾大学津田梅子資料室所蔵

津田梅子は、佐倉藩出身の農学者津田仙^{つだ せん}の二女として生まれた。1871(明治4)年、渡米経験のあった父の勧めで、梅子は6歳で日本初の女子留学生として渡米する。その後17歳までの約11年間をアメリカで過ごし、帰国後は1900(明治33)年に日本初の女子高等教育のための学校「女子英学塾(現津田塾大学)」を開校する等、女性の地位向上に努めた。

1897
(明治30)年

県内初の公立図書館が 創設



天賞文庫 / 千葉県立中央博物館

明治後期になると、現在の香取市や成田市、多古町など、県内各地で篤志家の私財の提供により、公立図書館が創設された。1897(明治30)年10月には、東京銀座の貴金属店主・江沢金五郎^{えざわ きんごろう}らが郷里の大多喜町に町立大多喜天賞文庫^{てんしょうぶんこ}を寄贈。2階建てのレンガ造りの建物であり、県内初の公立図書館となった。

1899
(明治32)年

成田山参道で「米屋」 創業



創業当時の米屋本店外観 / 米屋株式会社

成田鉄道の開業により、成田山への参詣客が増加し、参道には土産物店や宿屋が急増した。そのような状況を見て、1899(明治32)年に諸岡長蔵は家屋・店舗を大改造して「米屋」を創業した。同年末には、名物「栗羊羹^{くりようかん}」を試作し、販売を開始した。「栗羊羹」は成田山新勝寺の精進料理である「栗羹^{くりかん}」にヒントを得たとされている。

明治中期～
後期

ふなこしまる 県令船越衛の 養蚕奨励政策



1889(明治22)年、現茂原市での収穫の様子 / 千葉県立中央博物館

1880(明治13)年、県令船越衛が養蚕技術の訓練施設として「養蚕伝習所」を設立し、桑苗貸付制度を創設したことをきっかけに、県内では明治中期頃から養蚕が盛んになり、明治末期には主要産業のひとつとなっていた。山武・印旛・香取といった県北部から九十九里方面にかけての地域が県内の主要生産地となり、年々桑畑の面積が拡大し、収穫量が増加していった。

千葉県の歴史コラム

全国初の県営軽便鉄道開通^{けいべん}

軽便鉄道は、陸軍の鉄道連隊により軍事演習の名目で敷設された鉄道のことである。軽便鉄道の敷設は、鉄道連隊の協力を得て行われることから、一般の鉄道よりも安価であり、千葉県内で国営鉄道が走っていない地域に県営で軽便鉄道を通そうと考えられたのであった。1907(明治40)年、誘致運動が成功し、交通兵旅団司令部・鉄道連隊等の進出が決まると、1910(明治43)年、県知事^{ありよしちゅういち}有吉忠一は県営軽便鉄道開通に向け、鉄道敷設軍事演習を立案する。



千葉―津田沼間の軽便鉄道の橋梁 / 習志野市教育委員会



軍用の駅と双合機関車 / 習志野市教育委員会

その結果、1911(明治44)年5月に柏―野田町間、7月に成田―三里塚間、10月に三里塚―多古間を結ぶ路線が開通し、全国初の県営鉄道開通がなされた。また、1914(大正3)年には三里塚と八街(13.8km)が繋がり、京成津田沼と松戸を結ぶ新京成の路線も、演習線として敷設された。軽便鉄道は、地域交通の発展に大きく寄与し、千葉県の経済や社会の発展を支える重要な役割を果たした。